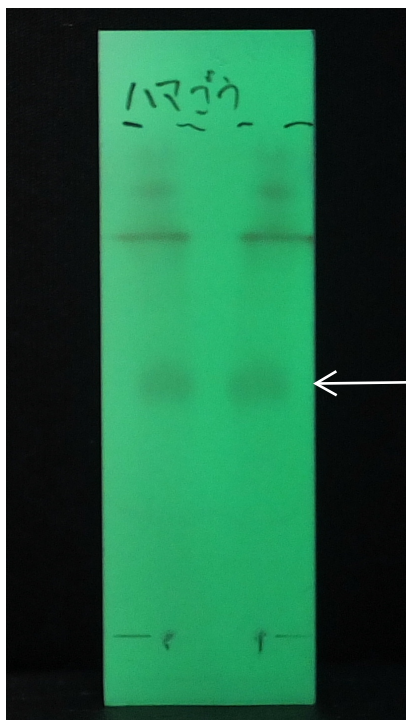


ハマゴウ



← カスチシンのスポット

蔓荊子の粉末 1 g に対して、10mL のメタノールで溶き、試験溶液とする。
酢酸エチル/メタノール/水 (10 : 2 : 1) を展開溶液とし、薄層クロマトグラフィーで展開し、
風乾させたのちに、加熱。紫外線 (254nm) を照射し、スポット、バンドを検出。

主要成分 Agnuside、カスチシン、 α ピネン

成分 フラボノイド類、精油類、脂肪油

モノテルペノイド： α ピネン、カフェイン、酢酸テルピネオール、ビテキシフォリン、ベンゾフラン、イリドイド類

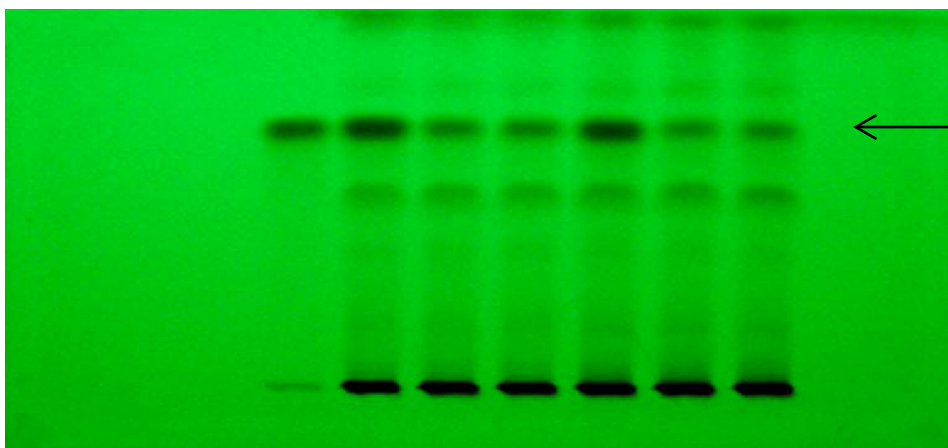
ジテルペノイド：Diterpene alcohol

フラボン誘導体のビテキシカルピン (Vitexicarpin)

ビタミンA誘導体：レチノイド Retinoids

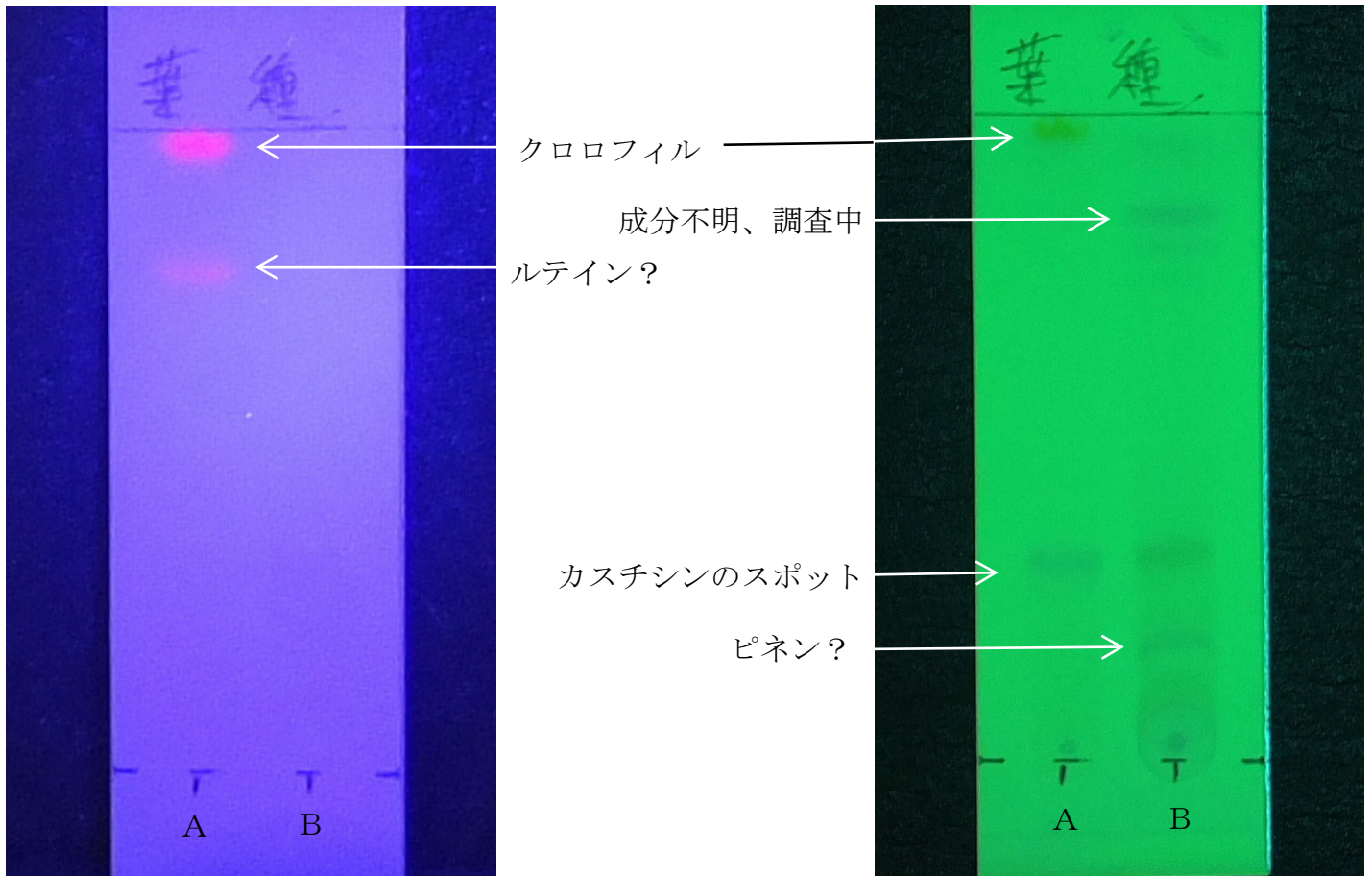
アルカロイド：ビトリシンを含む。

葉は、カスチシン、ルテオリン-ワーグルシド、精油を含む。



← カスチシンのスポット

展開溶媒 酢酸エチル : メタノール : アンモニア水 (8 : 1 : 1)



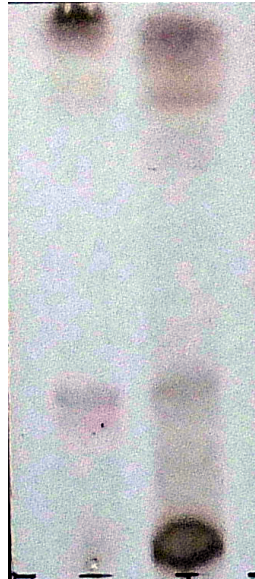
A 葉の乾燥物1gをエタノール5mLで溶き、5 μ Lをスポット
 B 種子の焼酎漬けのエキス5 μ Lをスポット
 展開溶媒 酢酸エチル、メタノール、水 (3.1/0.6/0.3mL)
 左側画像は紫外線360nm照射、右側は紫外線254nm照射
 希硫酸噴霧後、加熱

ハマゴウの種子（蔓荊子）と葉や茎（蔓荊葉）との成分の違いを調査したもの。
 双方に含まれるカスチシンは確認できた。
 種子には多くの成分が含まれていることも解った。

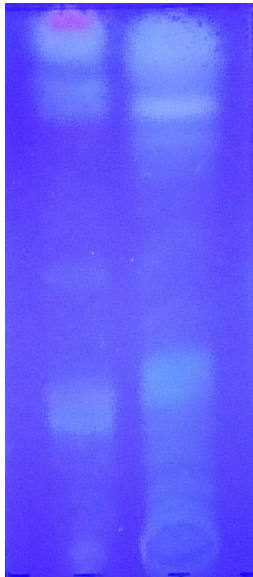
Daylight



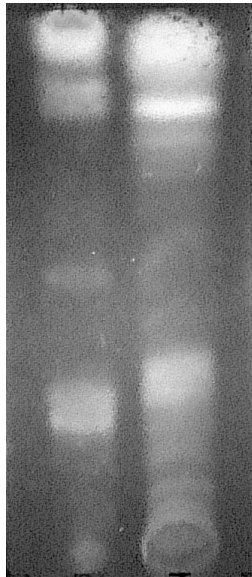
contrast (+)



UV380nm

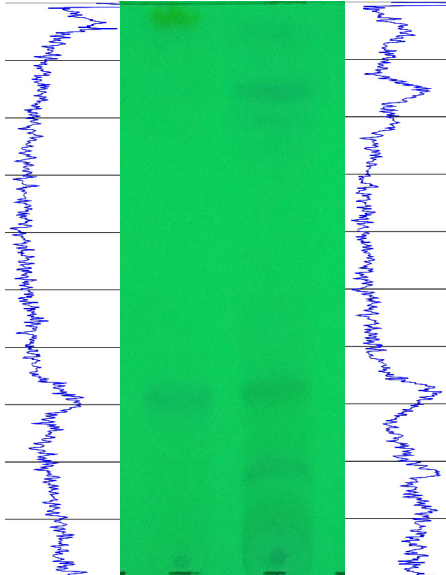


Gray scale



最上位まで上がっているのは、カロテンやクロロフィルで、溶媒の極性が強いため、上がりきっている。成分調査なので、不要な成分は上げきり、必要な成分がRf値0.3~0.7くらいになるように調整する。

UV254nm



Gray scale

